

駐車場が完備され、ペンション街は白馬の和田野・五竜地区のような立地条件であり、ペンションビレッジでは、殆どの日本人オーナーが土地・建物を豪州人に売って町に移住したとのことであり、外人村という雰囲気であった。また、至る所でコンドミニアム・ペンション等が建築中であり、白馬村とは違った活気を感じた。

しかし、新築・改築物件が至る所で「セール」の立看板が乱立しており、前述の投機目的に違和感を持った。更に開発規制が遅れたためか隣地と建物が接近し、雪の問題、道路の除雪などに問題があるようだ。また、建物の形状、色彩なども統一しておらず外国人好みの感があった。

ニセコひらふ地区は土地も飽和状態であり、雄大な白馬アルプスの景観に魅せられて外国人、不動産業者が進出してきたのではないかと思う。「コンドミニアムの進出によって、既存のホテル・ペンションが客を奪われないか」との質問に、福井氏いわく「影



規制が遅れ、隣の建物と接近（ニセコひらふ）

響はない」と、また、「外国人とのトラブルなどは」の質問に、「開発不動産業者がしっかりと管理しているため、さほど問題はない」との返答があった。しかし、昨今の金融不安が今後どのように影響を及ぼすのか不安もあるとの発言もあった。

(2) ニセコ町

(アイヌ語で切り立った崖)

◇日時 平成20年10月28日

◇場所 ニセコ町役場 会議室

◇説明者

ニセコ町議会 一宮副議長

長・渡辺議会運営委員長

ニセコ町役場 加藤企画課長・折内商工観光課長

◇内容 ニセコ町の外国資本による開発の現状についての説明及び意見交換

ニセコ町は人口約4700人でアンヌプリの山岳に囲まれ、ニセコひらふスキー場と接し、ニセコ東山スキー場、ニセコアンヌプリ国際スキー場があり、第1次産業22・9%、第2次産業8・5%、第3次産業68・5%で、観光と農業が基幹産業である。倶知安町（ニセコひらふ）と同様に外国人観光客が増加しており、70件の宿泊施設があり、西武グループ（プリンスホテル）が開発したスキー場は、ヒルトンホテルに経営が移ったようである。

自然公園法があり、クリアしなければならぬ規制があるためか、町自体の規制は、白馬に比べて緩やかな印象を受けた。企画課長から外国人頼みの開発は期待もしているが心配もしているとの発言が印象的であった。

(3) まとめ

倶知安町（ニセコひらふ）ニセコ町それぞれ視察をするなかで、いずれも観光と農業の町であり、観光協会長・行政担当者の違った視点での意見も貴重であった。開発規制については、白馬村の方がしっかり確立しており、あまり参考にはならなかった。

ニセコ地区の資源・景観など素晴らしいが、白馬のスケールの大きなアルプスをあらためて誇りに思った。外国人観光客に魅力・人気があるのも頷けた。

白馬村においてニセコ地区のような投機目的での不動産取得は規制をする必要があると思うが、開発業者にはしっかりと管理まで責任を課し、優良な開発業者も受け入れながら、地域の活性化・雇用の創出も図り、過去の苦い経験を踏まえ、将来を見据えた国際観光リゾート白馬を目指して、世界に発信することが重要であると感じた。